

藤原早子さん●調停委員

## 思いやりが人生を豊かにする

調停委員を30年間務め、年間約50件の紛争を解決に導く。2008年春の叙勲で瑞宝双光章を受章。70歳を過ぎてなお地域社会に尽くすことのできる毎日に喜びと感謝を覚えながら、人として大切なことは何かを考え続ける人。文字と語り「地の塩、世の光」をはつらつと証しする同志社人を、伊勢神宮そばの自宅にお訪ねしました。



ふじわら はやこ

1936年、三重県度会郡生まれ。三重県立宇治山田高等学校から同志社女子大学文学芸学部家政科に入學、59年卒業。結婚して東京で暮らした後、家業を継ぐ夫に伴い、伊勢市に帰郷。75～85年、三重県立松阪高等学校、皇學館大学付属高等学校で家庭科講師を務める。78年、津地方・家庭裁判所伊勢支部の調停委員に任命されて現在に至る。保護観察を受けた少年を支援する「三重少年友の会」副会長。2004～08年まで伊勢調停協会理事長。

## 専業主婦から

## 教師と調停委員の二足のわらじに

——この度の叙勲、お祝い申しあげます。藤原 ありがとうございます。30年間の調停委員功労ということで瑞宝双光章をいただきましたが、率直なところ、受章の知らせを聞いた時は恥ずかしいだけでした。自分では、普通のことをしてきただけだと思っていますから。一つの仕事を何十年も真摯に続けている人は世の中に大勢おられます。私の場合は、たまたま調停委員という仕事が叙勲の対象だったからにすぎないんです。それに、私一

人でいただいたものでもありません。周囲から「あなたの受章はご主人の協力があつてのこと」と言われましたが、まったくその通り。主人と子どもたちに心から感謝しているところです。

——調停委員を引き受けられた経緯をお聞かせください。

藤原 歯科医をしていた父のすすめでした。患者さんの中に伊勢調停協会の理事長がおられて、「早子さんもどうですか」と。父も、私が社会のお役に立てるのなら、そして世の中を知り修業になるのならと勧めたのでお引き受けしました。伊勢に帰ってからは恩師に勧められて高校

で家庭科の講師をしていましたが、8年間は調停委員をしながら教師も続けました。東京では本場に平凡な専業主婦でしたけれど、帰郷をきっかけに、大忙しの毎日になりました。

——調停委員として、具体的にはどのようなことをされるのですか。

藤原 最初は家事調停を担当し、3年後には民事調停も担当させていただくようになり、現在は家事と民事の調停委員、それに参与員、司法委員を担当しています。扱う事案は、離婚調停から境界（けいかい）確定まで、さまざま。裁判所へ行くのはだいたい月に5回程度です。

——責任の重いお仕事ですね。

藤原 私たちの調停いかんで、その人の人生が変わってしまうことがありますからね。今も反省点は多々ありますが、どうか今日まで続けられました。

## 「よく聴く」態度が調停を成功させる

——調停で最も大切にしておられることは何ですか。

藤原 双方の当事者の話をよく聴く。事情や気持ちを汲みとる。これに尽きます。調停はどちらが正しいかを決めるのではなく、双方の合意点を見つけるための作業ですから。それに、片方の話を聞いて「何てひどい」と思ってもう一方の話を聞くと、全然違ったということが往々にしてあります。30年間、同じケースには一件として出合いません。

——調停委員としての、ご苦労とは。

藤原 一番大変なのは、正反対の意見を言う人たちの間で、双方に不満のないように中立の立場を保つこと。それでもうまく行かなかったことも多く、取り下げや不調に終わった事案などは、もう少し何とかできなかったのだろうかと思いつつ悩むこともありました。そんな時は、あま

り自覚はないんですが、家族に八つ当たりしているそうです（笑）。

——逆に、やり甲斐は何ですか。

藤原 当事者の方々は、誰もがすぐに素直に話してくださる訳ではありません。昔はこちらから水を向けないと、なかなか自分から口を開いてくださらなかったものです。それに皆さん最初はたいいてい勢い込んで、パリッとしたスーツなどを着てこられますね。でも「ここは話し合える場だから、もつとリラックスしていいんですよ」と言うと、次からはその人らしい、自然体の服で来てくださる。そうして、徐々に素直になってくださいます。何度も調停を重ねて合意に至った時の、当事者の方々のほっとした表情を見る度に、私も喜びでいっぱいになります。最後に「ありがとう」という言葉を聞いた時も同じ。心を開いてくださった証拠ですから、うれしいですね。職員室で生徒と向き合っていた時と同じような気分です。

——調停に限らず、社会貢献とはどのようなものだとお考えですか。

藤原 結局「思いやり」だと思っております。特に今は複雑な世の中になって、人とのつながりが希薄になってきていま

す。昔は「人様を思つてから自分のことをしなさい」と言われたのですが、そのような人が減ってきたのは残念なことです。自我を出す前に他者を思いやりながら、一つのことを辛抱強く続けていけば、やがて自分にとっても社会にとっても大切なことが見えてくる。たとえ特別なことをしなくても、それが社会を良くする生き方なのではないでしょうか。

## 時代は変わっても母親の役目は変わらない

——30年間さまざまな人間模様を見てこられて、時代や社会の変化はお感じになりますか。

藤原 今は皆さん、自分の権利をどんどん主張されますね。ちよつと自分を主張しすぎだとも思います。「調停委員は自分の味方をしてくれるもの」と思い込んでいるような人から、そうではなかったという理由で「交代させて」と名指して苦情を言われることもあります。それからこの30年間、男性の女性化が目立つ一方、女性の自立が進みましたね。女性の社会的地位が上がりました。仕事を持つお母さんが多いので、離婚調停でもすんなり親権を得て、自立していく方が多い

と思います。

——同志社女子大学では、かつての「良妻賢母」となる人物を育てる大学から、女性のさまざまな生き方を支援する大学へと方向を変えつつあります。藤原さんがお考えになる理想の女性像をお聞かせください。

**藤原** 少し話はそれますが、私の実家もともと伊勢神宮外宮の神主で、先祖には江戸時代後期の国学者、足代弘訓あしたかのひろのりがいます。この弘訓が学問の要を論じたものに、「自警八条」があります。人に誇るために学問すべからざる事、人と争うために学問すべからざる事、人をそしるために学問すべからざる事、人の善を妨ぐために学問すべからざる事、人の悪を発はらぐために学問すべからざる事、古人の説の理を非に枉げるために学問すべからざる事、名を売るために学問すべからざる事、利を貪るために学問すべからざる事——実家ではこれが、常に家族の目に入るところに掲げてありました。今も私の心の中には、この自警八条が残っています。

女性がいろいろな生き方を選択できるようになったのはいいことだと思います。ただやはり、子育ては親の責任だと

思うんですね。子どもの成長は、とくに小さいころの環境が大きく左右します。母親がキャリアウーマンなら、子どもが小さいうちはある程度休暇を取り、子育てに専念することが必要だと私は思うんです。この期間に子どもの心には、思いやり、優しさというものが身についていくのではないのでしょうか。母親になる女性には、その時間を大切にしてほしい。

「三つ子の魂百まで」です。  
——調停委員と教師を兼務しておられたころ、藤原さんも子育ての最中でした。

**藤原** 調停委員と重ならなかったら、おそらく教師を続けたと思います。「三日したら、やめられない」と言う通り、教師の仕事はやり甲斐がありましたから。ただ、専任講師にならなかつたのは、子育てを大切にしかつたからです。母から「つ」の付く年齢までは子どものそばにいなさいと言われました。八つ、九つ、という年までは子どもに目を行き届かせなさいと。息子が「学校から帰ってきて、お母さんが『お帰り』と言ってくれるのが一番うれしい」と言ったことがあるんです。時代は変わっても、母親の大切な役割は変わらないのではありません。

点です。それでも自由な生活に憧れて、2年先輩の坂本清音さん（女子大学名誉教授）に、退寮したいと相談したことがあつたんです。すると坂本先輩がおっしゃるには「4年間寮にいて、初めて人は成長できる」。あの言葉がなければ、今の私はなかつたかもしれません。その後東館の寮長を務めさせていただき、卒業後も1年間、舎監をしました。東館だけでも90人をまとめるのは大変でしたし、寮生から相談を受けたり電気製品が壊れても寮長が修繕したりと、忙しい毎日でした。寮生活の思い出は尽きることはありません。

### もつと新島精神の息づく同志社女子大学に

——同志社を選ばれた動機は何だったのですか。

**藤原** 実家はクリスチャンホームだったので、父の夢は、私が「同志社女子大学に入って聖歌隊に入ること」だったそうです。私も従順だったんですね。聖歌隊に入り、ソプラノを歌いました。「やすかれわが心よ」や入学式で歌った「聖なるかな」は、今も大好きな讃美歌です。結局、私も同志社教会で洗礼を受けまし

### 「思いやり」を学んだ常盤寮での青春時代

——同志社女子大学では、どのような学生だったのですか。

**藤原** 活発な学生でした。私は男女共学の大学に行きたかつたのですが、当時の父には受け入れてもらえなかつたんです。結婚して子どもを育てるのが女性の幸せであり、務めである。それで入学して間もなく「やはり私に女子大は似合わないなあ」と感じて、卒業までの4年間、半ば中性的な振る舞いで通しました。ワイシャツにタイトスカート、冬はスーツ。週末はよく三条を闊歩して、三本立ての映画を観た後などはよく門限に遅刻しました。こつそり植え込みから寮に入ろうとして、守衛さんに追いかけられるのが楽しかつたですね（笑）。ジルバを踊りにいったり、三条の「ペラム」にも行ったり。大学の友だちは、私が「不二家」に行っているものと思っていたようですが（笑）。

——どちらの寮におられたのですか。

**藤原** 常盤寮東館にいました。先輩が夜中にバケツを叩くなど大騒ぎして新入生を歓迎する「ストーム」には、びっくり

た。

——同志社女子大学に望まれることは。

**藤原** 新島精神、キリスト教主義の精神が、教育の中にもう少し込められてもよいのではないかと思います。そのような教育を受け入れることのできる、「精神のある子」を入学させていただきたいですね。私がお世話になつた木咲弘先生のゼミの仲間も、今でも「いちご会」と称して毎年5月に集まります。他の外出は皆さん、ご主人に「行つてもいいですか」と尋ねるのに、同志社の集まりだけは最初から「行かせていただきます」と宣言するそうです。我が家も同じです（笑）。それだけ私たちは、昔も今も同志社女子大学に愛着を抱いているんです。

——本日はありがとうございます。

——調停委員は今後も続けられますか。

**藤原** 調停委員は70歳が定年ですが、74歳まで延長です。私もあと3年、無事に任務を終えたいと思っています。裁判官がどんどんお若くなつて、私の息子より年下の方もおられますけれど（笑）。あとは、42歳で始めた日本画をずっと描いていきたいと思っています。

（聞き手・當村まり、2008年7月4日・伊勢市）

しましたけれど。6帖に3人が生活し、新入生は「ペビーさん」、先輩は「ママさん」と呼ばれて、先輩と後輩の交流はとても密でした。先輩が態度で示し、論じてくださった。けじめや辛抱というのが知らず知らず身についた、そういう時代でした。常盤寮は西館に80人、東館に90人という大所帯で、集会などは階段に全員が座つて壮観でした。この170人に電話は1本のみ。今では考えられないことです。

——寮生活で得た、大きなものは何ですか。  
**藤原** 当時、同志社女子大学に来る女性といえは、お嬢さん。率直に言つて、わがまま娘が多かつた（笑）。洗濯なんてしたことないから、洗濯場は水浸し。でも、そうやって家事を覚えたり、共同生活を通じて、人を思いやることを覚えていきました。

——先ほども「社会貢献とは、思いやり」というお話がありました。

**藤原** 思いやりがなく、一步引くことや尊敬の念というものを知らなければ、寮生活はできません。社会生活も同じではないでしょうか。私が同志社へ来て一番良かったと思うのは、思いやりを学んだ

藤村公平さん ● 亀岡市観光協会事務局長

## ふるさとに観光PRで恩返し

エネルギーシユで、ダンディ。高島屋を定年退職し、出身地の観光協会事務局長に民間から公募で初採用。長年の海外勤務で培った行動力と企画力を手腕に、ふるさとの魅力を発信し続けて1年半が経ちました。「観光ができるのは平和の証し」という思いを胸に、第二の仕事人生を駆け抜ける同志社人を紹介します。



ふじむら こうへい

1947年、京都府亀岡市生まれ。同志社高校を経て69年同志社大学商学部卒業。同年、(株)高島屋入社。国内では主に婦人服・婦人雑貨部の主任・バイヤーなどを務め、73年のパリ店開設を皮切りに世界各国で活動。アジア地域支配人も務める。07年3月、京都店サービス営業部担当部長を最後に高島屋を退職。同年4月より現職。「ふじむら局長のI Love KAMEOKA!」  
<http://i-love-kameoka.blogzine.jp/>

偶然見つけた公募の告知で  
第二の人生を決定

——観光協会事務局長に就任して1年と少しが経過しました。今のご感想をお聞かせください。

藤村 すごく面白いです。自分に合っているのかなと思います。高島屋でも営業をやっていたし滞在期間も長く、バイヤーのアテンドやお客様をもてなす機会も多かった。接客面での習熟度は高いと、自分では思っています。企画宣伝部にも

8年近くいましたので、観光協会は、そういう経験が総合して生かせる場だと感じています。給料は、高島屋にいた時の3分の1以下になりましたけど(笑)。でも正直言ってお金の問題ではないんです。自分のふるさとでこんな仕事ができることに、やり甲斐を感じます。

——事務局長に応募された動機は何だったのですか。

藤村 定年まであと1年となると、高島屋では比較的時間に余裕のあるポストに就けてくれます。次のステップアップへ

——採用される自信はおありでしたか。

藤村 全然ありませんでした。論文試験で61人中13人がパスして、面接で最終の5人に入っていたんですが、だめだろうと。ホテルマン、旅行会社の人など、やる気にあふれた素敵な方々がおられましたから。3月19日に面接があり、実は20日から妻と共にパリに短期留学するつもりで、アパルトマンを1か月予約していたんです。定年前にまとめて有給休暇が使えますからね。この時点では、パリで語学をブラッシュアップして、また会社に戻るつもりだった。そうしたら出発当日、関西空港の搭乗カウンターで内定の電話連絡を受けまして(笑)。困ったなと思いましたが、結局10日間はパリについて、帰国の翌日に事務局長就任。急きょ会社にも退職届けを出すことになって、大変でした。

## 観光は平和のパスポート

——ふるさとの、特に観光に役立ちたいという思いを生み出したものは何ですか。

藤村 高島屋時代は海外勤務が長く、休暇を利用して世界各地を旅行しました。世界文化遺産が好きで、ヨーロッパはもとより、メキシコのマヤ、インカのマチ

ユピチュ、中国の万里の長城、エジプト、トルコなどへ。リゾート地のカナリア諸島、ブラジルのコパカバーナへも行きました。そこで一番印象に残っているのは、やはり「おもてなし」なんです。それが旅のポイントだと思います。現地に着いて、旅行者が最初に接するのはタクシードライバーであったり、ホテルのカウンターの人であったりします。そこで受けたサービスや親切が町のイメージを決める。タクシードライバーが元気な街は、だいたい魅力的な街です。私もそういう温かい思い出が心に残っていますので、これからはふるさとの亀岡を訪れた皆様、私が海外で受けたおもてなしをお返ししていこうという気持ちです。

——世界中を旅されたことよって、特に抱かれた思いはありますか。

藤村 各地の世界遺産を訪れましたが、まだ行っていないのがメソポタミアやシルクロードのパーミヤン。紛争や政情不安が理由です。つまり観光は「平和のパスポート」なんです。観光とは、現地の「光」、勢いを「観」にいくこと。観光できるということは、その地が平和である証拠なんです。

——平和な亀岡を、政策的にはどのようなアピールしていきますか。

の準備期間を与えてくれる。私も東京の会社に再就職を決めたんですが、また単身赴任というのがちよつと気にかかっていました。その前に東京に単身赴任しながらアジア地域支配人として、世界中に出張していましたから。ちよつどそのころ、亀岡の実家に帰った時に、市の広報紙で事務局長公募の知らせを見つけた。自分のふるさとに貢献する生き方もいいなと思って、ピンと来た。すぐに「亀岡観光のビジョンと具体策について」という論文を書いて応募しました。

藤村 城跡、歴史、温泉、恵まれた自然環境と、亀岡には本当に素晴らしい観光資源がたくさんあるんですよ。豊かな自然の中で保津川下りやトロッコ列車で遊んで、湯の花温泉で疲れを癒して帰っていたんだけど、亀岡の観光。ききょうの里や800万本のコスモス園など、花も魅力的な観光資源です。花は、特に女性に人気がありますね。ところが今までは、駅前からタクシーに乗っても、運転手さんは謙遜して「いやあ、亀岡には何にもなくて」などとおっしゃっていた。私は、それは絶対にだめだよと言ってます。亀岡を訪れる人々に対して、街が一丸となつて魅力を伝えていかなくては。私は民間から初めて採用された事務局長ですから、特に「官+民+3」という精神で仕事に当たりたいと思っています。要は、マイノリティの問題。「1+1=2」ではなく、「3」にしようという信念です。「第三セクター」の「三」も、本来そういう意味だそうですね。

ハバネロから「神様コラボ」まで  
ユニークな企画を発信

——早速、さまざまな企画を発案しておられると聞きました。

藤村 嵯峨野の野宮神社の宮司、懸野直

樹さん（83年・文卒）と意気投合して、野宮神社と、亀岡にある出雲大神宮との「愛の成就ツアー」を企画しました。両社ともに縁結びの神様ですから、全国初の「神様コラボ」。モニターツアーや、CS（顧客満足度）セミナーの開催なども企画しました。亀岡へのリピーターを増やそうというねらいです。

——農産物や加工品についても、多彩な商品開発をしておられますね。

**藤村** 亀岡ブランドの育成も大切だと思っただけです。近年話題の激辛とうがらし、ハバネロを亀岡の特産としてアピールしています。丹波大納言の中でも「幻の小豆」と言われている馬路大納言も、亀岡の特定地域でしか栽培できないんです。年間4トンしか収穫できないのですが、それだけに亀岡には、この小豆を使う和菓子屋の製造工場がいくつもあるんですよ。商品を育てるのは、人を育てるのと同じ。時間はかかりますが、やり甲斐があります。

——明智光秀の居城が亀岡にあったことにちなみ、5月2日には亀岡で光秀サミットが開催されました。

**藤村** 350人が参加して、盛会でした。光秀サミットは16年前に一度行ったことがあるのですが、今回の話はNHKの番

組が発端です。信長と光秀を比較して視聴者にアンケートを行ったところ、光秀の方が評価が高かった。実は同じころ、光秀に関する新資料が発見されて、光秀がなぜ信長を攻めるに至ったかという経緯が実証されたんですね。豊臣、朝廷、信長、光秀と交流を図っていた公家の日記が見つかったんです。天皇制を廃止して自分が王になろうとした信長を、光秀が許せなかったということが書いてあった。その新説を、光秀顕彰会の席で京都大学名誉教授の上田正昭先生が発表されたことを契機に、光秀を再評価するサミットの話が自然発生的に生まれたんです。サミット当日は亀岡市長と安土町長が握手して、マスコミで「426年ぶりの握手」などと報道されました。亀岡のアカデミックな側面も紹介できて、意義ある企画だったと思います。

——観光協会のお仕事の目標をお聞かせください。

**藤村** 亀岡は円山応挙の出身地なんです。私は海外の美術館巡りも好きなんです。海外では、地元出身の有名な画家の美術館が必ずありますよね。亀岡でもぜひ円山応挙の美術館を創設して、地元を誇りたい。それが私の最終目標です。亀岡市では2010年に亀山城築城

気で厳しかったです。

——商学部ではどんな学生でしたか。

**藤村** 監査論の中野ゼミにいました。中野先生は同志社大学に、公認会計士を目指す研究会を育てようという情熱をお持ちの方でした。先生からは合理的な思考と物事をやり抜く熱意を教わり、今もメールでいろいろと教えていただいています。心から尊敬している恩師です。

——当時は私も会計学研究会に所属して、20人くらいの仲間と共に公認会計士を目指していました。最終的に会計士や税理士以外の道へ進んだのは、私を含めて4人だったと思います。ただ、当時は会計学研究会などを出たと言ったら、就職後の配属先は経理部。真面目に勉強して簿記1級も取得したんですが、性格上、そろばんをはじいている姿はどうも自分には合わない。自分にはもつと別の才能があるんじゃないかと。画家だった叔父がフランスに行っていたこともあり、私も日仏会館でフランス語会話を勉強していましたから、何かフランス語を生かすチャンスはないだろうか。それで高島屋に入社して、営業を希望しました。

——同志社大学を卒業されて、今もご自身の中に残っているものはありますか。

**藤村** 今になって思うことですが、同志

社で受けた教育には、まるで母親から受けてきた愛情に似たものを感じます。一方的に、制限なく注がれる愛情。けれど、孝行したいと思った時に親はいない。学生だけでなく、卒業生に対しても同じ愛情が今も注がれているように感じます。東京の早慶には三田会や稲門会といった、強烈な同門意識を持つ同窓会組織がありますね。例えば慶應出身者は、会社を早退してでも三田会に出かける。でも、同志社の同窓生はそれほど熱心ではない。その「ほどよい同志社意識」が、私には心地いいんです。結東は緩いけれど、みな母校には愛着を持っている。言わなくとも通じ合っているのが不思議です。ね。また、それが大事だと思うんです。それから海外駐在時代は、同志社で学んだおかげで、キリスト教文化には違和感なく入っていました。

### 自給自足を目指して スローライフを満喫

——現在、お仕事以外ではどのように過ごしていますか。

**藤村** スローライフを楽しんでいます。自宅は洛西にあります。亀岡の実家の畑を利用して、一年を通じて40種類以上の野菜を栽培しています。トマト、ナス、

400周年を迎えます。光秀がいた当時は三層でしたが、五層の天守閣ができて400年。今はこの記念事業の企画にも力を入れる毎日です。サミットもその一環でした。今後は城下町の再生や、大河ドラマの舞台に選んでいただくことも夢ですね。亀岡市を訪れる観光客を、年間200万人にすることも私の使命と考えています。

### 親の愛を思い起こさせる 同志社の愛情

——同志社は、高校から入られたのですね。

**藤村** 中学までは亀岡にいましたが、大学に進むのであれば京都の高校へ行った方がいいと親に勧められました。同志社高校に入っても、進学ムードは全然なかったですけれどね（笑）。学生時代をいかに謳歌するかというムードに満ちていました。入学と同時に入ったのは岩倉のキング寮。入寮当日に「試魂会」と称して、肝試しがありました。夜中の2時に起こされて、墓場へ自分の名札を取りに行く。翌日親御さんが来て、3人くらい退寮しました（笑）。私もスクールバスが走るようになってから自宅通学に切り替えましたが、昔の寮は旧制中学のような雰囲気

キュウリ、カボチャ、メロン、スイカにトウモロコシ。山芋、里芋、生姜、三度豆、黒豆、小豆。まだまだありますが、野菜については自給自足が目標。将来は「マイ米」を作りたいですね。日本蜜蜂を養って、はちみつ作りにも取り組んでいるところです。

——同世代だけでなく、これから熟年を迎える卒業生の方々に対して、有意義な人生を過ごすためのメッセージをお願いします。

**藤村** 60歳近くにもなれば、自分がやりたいと思ったことをやればいいんですよ。私も知人から転職の相談を受けたことがあるんですが、本人の心はもう決まっているんですね。後は誰かが背中を押してあげればいい。

——学生の皆さんに伝えたいことは。

**藤村** 機会があれば、スローライフの政策、地域ブランドの作り方、観光対策など、自分の経験を通して得たものをお伝えしたいと思っています。

——それほどまでにエネルギーが溢れているコツを教えてください。

**藤村** 深く悩まないことです（笑）。——本日はありがとうございました。（聞き手・當村まり、2008年6月5日・亀岡市）